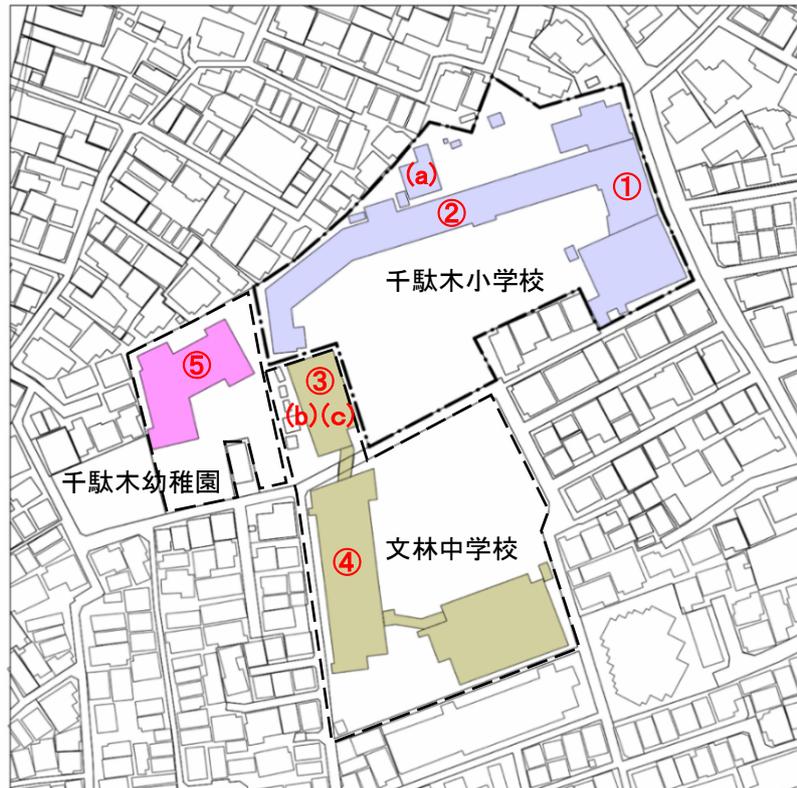


改築の範囲について

1. 千駄木小学校及び周囲の現況

千駄木小学校は、西側は千駄木幼稚園が隣接し、道路を挟んで南側及び校庭西側には文林中学校が隣接しており、区立の幼・小・中学校が一带となっている区内でも数少ない環境です。



現況配置図



2. 既存校舎の建築年

千駄木小学校：①校舎東側部分は昭和 11 年（築 86 年）

②校舎中央～西側部分は昭和 43～44 年（築 53～54 年）

文林中学校：③特別教室棟は昭和 36 年（築 61 年）、④普通教室棟は昭和 45～49 年（築 48～52 年）

※平成 29・30 年快適化工事

千駄木幼稚園：昭和 50 年（築 47 年）⑤

3. 育成室の整備

3 育成室（(a)千駄木育成室、(b)文林中学校育成室、(c)文林中学校第二育成室）は、小学校とあわせて新しく整備します。

4. 他改築校の所要年数

	誠之小学校 (小学校・育成室)	柳町小学校 (小学校・育成室・幼稚園)	明化小学校 (小学校・育成室・幼稚園)
検討委員会	H26.9～H27.3	H28.6	H26.10～H28.6
設計	H27.12～H29.3	H29.3～R1.6	H29.2～H31.3
着工	H31.2	R2.5	R2.9
竣工	R6.5 (予定)	R8.11 (予定)	R8.10 (予定)
合計年数	9年10か月	10年5か月	12年

5. 改築範囲別比較表

	A 小学校のみ	B 一体的改築 (小学校・幼稚園)	C 一体的改築 (小学校・幼稚園・中学校)
① 想定工費	B・Cと比較して安く、短期的なコストは抑えられる。	Aと比較して高いが、今後改築が必要となる複数施設を一度に改築することで、トータルコストは抑えられる。	
② 工事期間	B・Cと比較して建物の規模が小さいため、B・Cより短くなることが想定される。しかし、工事敷地が狭いため、一度の建替が難しく、分割して解体・建替を行う必要がある。	Aと比較して建物の規模が大きいため、Aより長くなることが想定される。しかし、工事敷地が広いので、解体・建替の回数が抑えられる。	
③ 仮設校舎の期間	B・Cと比較して長くなる可能性がある。	Aと比較して短くなる可能性がある。	
④ 工事期間中の運動場の確保	A～Cの工事条件に応じて検討が必要。		
⑤ 老朽化対策		築47年（令和4年時点）となる幼稚園を同時に改築できる。（※）	築47年となる幼稚園と、築約50年となる中学校（令和4年時点）を同時に改築できる。（※）
⑥ 配置計画	既存校舎と同じ位置での建替となる。	新校舎敷地の中央に、既存の文林中学校の敷地が残る配置となる。	A・Bと比較して、建物の配置計画の自由度が高い。
⑦ 避難所機能	A～Cのいずれの場合でも、防災課と調整しながら、避難者のニーズに広く対応できるように整備します。		

※一般社団法人日本建築学会の「建築物の耐久計画に関する考え方」では、築60年以上を更新の目安としています。